

毎日のガスの使用量を携帯電話で確認！ 離れて暮らす家族の状況を見守る

NPO法人パオッコ 〽離れて暮らす親のケアを考える会〽 太田差恵子

前は、離れて暮らす親が普段通りに生活しているか電気ポットを使って見守るサービスを紹介しました。今回紹介するのは、ガスの使用量で親の状況を見守るサービスです。

先日、こんな「子」の声を聞きました。親と離れて暮らす男性Sさんです。「実家の親は元気に暮らしているのだと思ってた。ところが、正月に帰省すると、いつも手作りしていた御節料理がなくて不思議に思ったのです」

Sさんは、決して御節がないことを不満に感じたわけではありません。「いったい、どうなっ

ているんだろう」と不可解だったので。

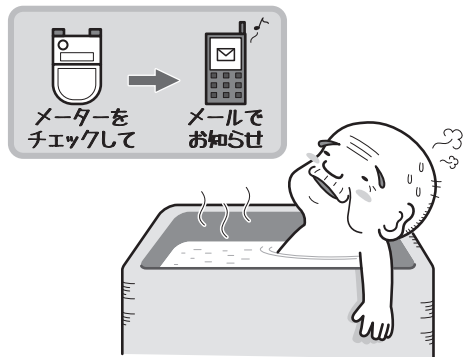
父親に尋ねたところ、秋頃より母親は食事の用意を一切しなくなったらしく、もっぱらコンビニ弁当が両親の命綱となっていたとのこと……。

〽弁当〽 がいけないわけではなく、料理好きな母親が料理を作らなくなったということが問題です。案の定、母親を受診させたところ、うつ病と診断されました。Sさんは「もっと早く気づけたはずなのに、あまり電話もしなかったものだから……」と肩を落としていました。

●2005年よりスタート NTTテレコンの 「あんしんテレちゃん」

Sさんの母親のように、心身の状況の変化により、日常生活に異変が生じるケースは珍しくありません。そんな日々の生活状況をさりげなく見守るのが、NTTテレコン株式会社の「あんしんテレちゃん」です。2005年にスタートしました。

NTTテレコンでは、もともとと全国約300万世帯向けに「LPガス集中監視サービス」を、全国のLPガス会社経由で提供しており、「あんしんテレちゃん」



絵・いしだみな / 働カトウプロ

はこの「LPガス集中監視サービス」を活用したものです。

利用できるのは、LPガスを使用している住まいに暮らす親（ガスメータ等の設備状況によってはサービス提供が困難な場合もある）。

その「親」宅のガスメータを1日1回朝8時頃に検針し、その使用状況（使用量）をあらかじめ指定された携帯電話やパソコン等の通知先（最大3カ所ま

で)にEメールで知らせる仕組みです。

ガスの使用がなかった場合(10リットル以下の使用の場合も含む)には「ガス不使用メール」が配信されます。

一般的なガスの使用量は、風呂では500〜1000リットル、湯沸しには13〜20リットル程度です。ほとんど使用されていないという場合は、食事の用意や入浴が難しくなってきたりなどの変化が生じている可能性があります。高いといえるでしょう。

◆あんしんテレちゃん

NTTテレコム株式会社
http://www.ntt-tc.co.jp/tele_chan/
問合せ(フリーダイヤル) 0120-547-230

■機器代金及び工事料金

24,150円(※ガス会社にて既に通信機器が設置済みで借用が可能な場合は無料)

■利用料

829円/月、もしくは1,039円/月(見守られる方のガス設備状況により異なる)
※料金の支払い方法はクレジット支払いのみ。

●利用申し込みは「子」からが多い

離れて暮らしていると、姿が見えないために過度に心配になったり、安否が気になったりするものです。そのせいか、「子」からの問い合わせが多いとか。ただし、子がサービスの存在を見つけた場合であっても、親への利用提案がスムーズに運ばないケースもあるようです。

「お問い合わせや契約については子どもさんから殆どです。自動的にメールが配信されるため、日常生活の状況が毎朝確認できるという点でお役にたっているようです。確認することや日課にしていたければ、親子のコミュニケーションに活用いただけると思います。ただ、中には『親には内緒にしたいが』というお問い合わせをいただくこともあります。同意書が必要である旨をお伝えすると、諦められる方もいらっしゃいます」と担当者。

利用する際に、親子でじっくり話し合うことが不可欠だといえるでしょう。

機器による見守りサービスは、親が現役だった頃にはなかったものです。子の立場で考えようと、「さりげなく」であっても、親からすれば「監視される?」と懸念するケースもでてきます。互いにシステムについてしっかりと納得できれば、安心感は大きくアップするでしょう。

なお、ガスの使用量による見守りサービスは、都市ガス会社でも実施されています。NPO法人テレメータリング推進協議会(照井恵光理事長)は、見守りサービスを提供している全国各地の事業者(LPGガスと都市ガスの両方)を、ホームページ(<http://www.teleme-r.or.jp/service.html>)でエリアごとに紹介しています。

●家族の「元氣」を見守り「あんしん」を届ける

2回に渡って通信機器による

見守りサービスをレポートしました。

高齢者が、病気やケガなどで緊急事態に陥ったとき、ボタンなどを押すことにより、しかるべき機関や人に通報し救護が受けられる「緊急通報サービス」と似ているようで、大きな違いがあります。

それは、「緊急通報」は、文字通り緊急事態を報せるものですが、「見守りサービス」は「元氣にしている」ことを報せるものだといえるでしょう。自分たち親子のニーズをしっかりと検討したうえで、利用したいものです。